

自生枝物(ツルウメモドキ、ノイバラ)の 挿し木繁殖法

福島県農業試験場 いわき支場

平成12～14年度福島県農業試験場試験成績概要

分類コード 05-29-02000000

部門名 花き—その他の花木—採種・繁殖

担当者 諏訪理恵子・矢吹隆夫

I 新技術の解説

1 要旨

自生枝物のツルウメモドキ、ノイバラは生け花などの花材として近年需要が高まっている。しかし、これら自生枝物は種苗の確保が難しいため栽培事例が少なく、その多くが山採りをして出荷されている。今後産地の育成強化には効率的な増殖技術の開発が必要であるため、挿し木による自生枝物の増殖方法を確立した。

- (1) ツルウメモドキは挿し木方法として密閉挿しに適している。また、挿し床に含水率の低い山砂を用いることにより、適量発根の割合が高くなる。
- (2) ノイバラはミスト挿しが最も適しており、挿し床の種類にかかわらず良く発根する。密閉挿しの場合、挿し床に含水率の高い鹿沼土とピートモスを混合した用土を用いることにより、適量発根の割合が高くなる。
- (3) ツルウメモドキでは、挿し木部位に枝の中央部分を用いることで、ノイバラでは、挿し木部位に枝の先端部分を用いることで適量発根の割合が高くなる。

2 期待される効果

- (1) ツルウメモドキにおいては、従来、根伏せによる増殖が一般的であったが、挿し木繁殖によって、より簡易で効率的に増殖可能となる。
- (2) 優良系統の大量増殖が可能となり、種苗供給体制を整えることが可能となる。

3 適用範囲

県内全域

4 普及上の留意点

- (1) ツルウメモドキは雄雌異株である。市場性があるのは実のなる雌株なので、増殖の際は雌株を選ぶようにする。
- (2) 挿し木時期を7月とすると、定植適期に成苗となる為、効率良くほ場展開できる。

II 具体的データ等

表1 自生枝物の7月挿しにおける発根状況

品目	挿し木方法	挿し床	発根 ²⁾			枯 (本)	適量発根の 割合 (%)
			適量 (本)	少量 (本)	無 (本)		
ツルウメモドキ	密閉挿し	鹿沼ピート ¹⁾	8	1		1	80
		鹿沼土	8	1			80
		山砂	10				100
	ミスト挿し	鹿沼ピート	9	5	1	1	90
		鹿沼土	7	9			70
		山砂	9	7			90
ノイバラ	密閉挿し	鹿沼ピート	10				100
		鹿沼土	8	1		1	80
		山砂	6	4			60
	ミスト挿し	鹿沼ピート	10				100
		鹿沼土	10				100
		山砂	10				100

挿し木日：平成13年7月28日 調査日：平成13年9月17日

1) 鹿沼ピート：鹿沼土とピートモスの混合用土(体積比1：1)

2) 発根：主根6cm以上または1cmを超える側根が10本以上見られた場合の発根量を適量、それより少ない場合を少量とした。

表2 挿し木方法

密閉挿し	十分に灌水した育苗箱をポリフィルムで完全に覆い、内部の湿度を保って発根させる方法
ミスト挿し	育苗箱にミスト（細かい霧）を噴霧しながら発根させる方法

表3 自生植物の7月密閉挿しにおける部位別発根状況

品 目	挿し木部位1)	適量発根の割合2)
		(%)
ツルウメ モドキ	根元部分	55
	中央部分	88
	先端部分	88
ノイバラ	根元部分	48
	中央部分	88
	先端部分	88

挿し木日：平成13年7月26日 調査日：平成13年9月17日

1)挿し木部位：枝を3等分し、根元に近い部分から順に根本部分、中央部分、先端部分としてそれぞれから挿し穂を調整した。

2)適量発根の割合：主根5cm以上または1cmを超える側根が10本以上見られた割合。

Ⅲ その他

1 執筆者

諏訪理恵子・矢吹隆夫・草野秀一

2 主な参考文献・資料

なし